

要 旨

本研究は、学級活動（１）の話合い活動において、学級の問題を共有させ、意見を比べ合う場を工夫することで、友達の思いや願いに気付き、よりよい集団決定に向かおうとする児童の育成を目指した。計画委員が３つに絞った議題案の中から、議題を１つに決めさせる話合いを全員で行わせ、議題の意義を共有させた。そして、自他の意見のよさに目を向けて意見の比較・検討をさせ、意見の決定を行わせていった。これらの活動を通して、自他の意見のよいところを生かしてよりよい集団決定に向かう姿が見られるようになった。

〈キーワード〉 ①議題の共有化 ②意見の比較・検討 ③意見の決定 ④意見の整理

1 研究の目標

よりよい集団決定を目指して、友達の願いや思いに気付き、多様な意見を生かして話し合う児童を育てるために、学級活動（１）において、問題を共有させ、互いの意見を比較・検討させる指導の工夫を探る。

2 目標設定の趣旨

児童を取り巻く社会は、少子化や核家族化が問題とされるようになり、人間関係が希薄になっている。遊びの場面でも学習場面でも、友達とうまく関わらず、すぐに集団の輪の中から出てしまう児童がいる。平成20年1月の中央教育審議会の答申で、人間関係の希薄化や好ましい人間関係が築けていないことが課題として示された。それを受けて、小学校学習指導要領特別活動の目標に「人間関係」が明示され、よりよい人間関係を築く力の育成が示された。特に、好ましい人間関係を築き、生活を改善するための話合い活動は一層重視されている。

所属校の3年生児童は、元気で明るく素直な一面をもっており、様々な活動に意欲的に取り組もうとする態度が見られる。しかし、話合いの場面では、自分の言いたいことを発言するだけで相手の意見を聞こうとせずに、主張したいことの言い合いになることもある。また、自分の考えをもっていても話合いの場で意見を出さない児童も多く、十分に討議が尽くされないままに多数決で集団決定することが多い。

今年度6月に実施した所属校のQ-Uの結果では、「クラスの人から認められることがあるか（すごいと言われることがあるか）」という問いに対して、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えた児童が42%（11名）であった。このことから、クラスから承認されているという自信がない児童が半数近くいることが分かる。学級会の中で、意見をもってはいても、全体の中で自分の考えを出すことができない原因の一つに、学級の中で友達に認められているという実感がないために安心して意見を発言できないと考えられる。

そこで、本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、特別活動の学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」において、自他の意見を比較・検討させ、意見のよさに目を向けさせてよりよい集団決定につながる指導の在り方を探る。全員で、議題の意義や必要性を共通理解する場、意見を比較・検討する場を設定し、自他の意見のよさに目を向けさせれば、友達の思いや願いに気付き、多様な意見を生かして、よりよい集団決定を行う児童が育つのではないかと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

学級活動（１）において、全員で議題決めをして学級の問題を共有させ、意見のよさの比較・検討

をさせた上で、「意見の決定」を行わせれば、友達の思いや願いに気付きながら話し合う児童が育つであろう。

4 研究の方法

- (1) 文献や先行研究を基にした話し合い活動に関する理論研究
- (2) 質問紙による児童の意識調査
- (3) 「ミニ会議」と「意見の決定」の場を取り入れた授業実践と検証及び考察

5 研究内容

- (1) 話し合い活動に関する理論研究を基に、よりよい集団決定につなげるための手立てを明らかにする。
- (2) 話し合い活動と事後活動の後に質問紙による意識調査を行い、児童の変容を明らかにする。
- (3) 所属校の3年生において、授業実践を行い、仮説の手立ての有効性を検証する。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

宮川八岐は、「話し合いの内容が、学級生活に直結する問題か、児童生徒にとって興味・関心のある問題かどうかは、議題が選定され決定する過程できまる」⁽¹⁾と述べている。また、杉田洋は、「学級会を通して単に話し合いの技術を身につけるのではなく、子どもたちに相手の意見を尊重する態度をしっかりと身につけようとするのが大切」⁽²⁾と述べている。

これらの考えを受け、本研究では、特別活動の学級活動(1)において、児童から提案された複数の議題を学級の問題として認識し、学級会に意欲的に向かうように、全員で話し合って解決したいと思う議題を決める場を工夫する。そして、意見の比較・検討をする場を工夫し、自他の意見のよさに目を向けて、全体で意見をまとめる活動を仕組む。

- (2) 研究の構想について

本研究では、学級活動(1)において、問題の共有化を図り、意見の比較・検討をする場を工夫することで、自他の意見のよさに目を向けて、友達の思いや願いに気付きながら話し合う児童を育成するための手立てを取り入れた研究構想を立てた(図1)。議題箱に入った議題カードの中から、計画委員会で候補となる議題案を選ばせておき、「ミニ会議1」で全員で話し合わせて議題を1つに決めさせる。このことにより、学級

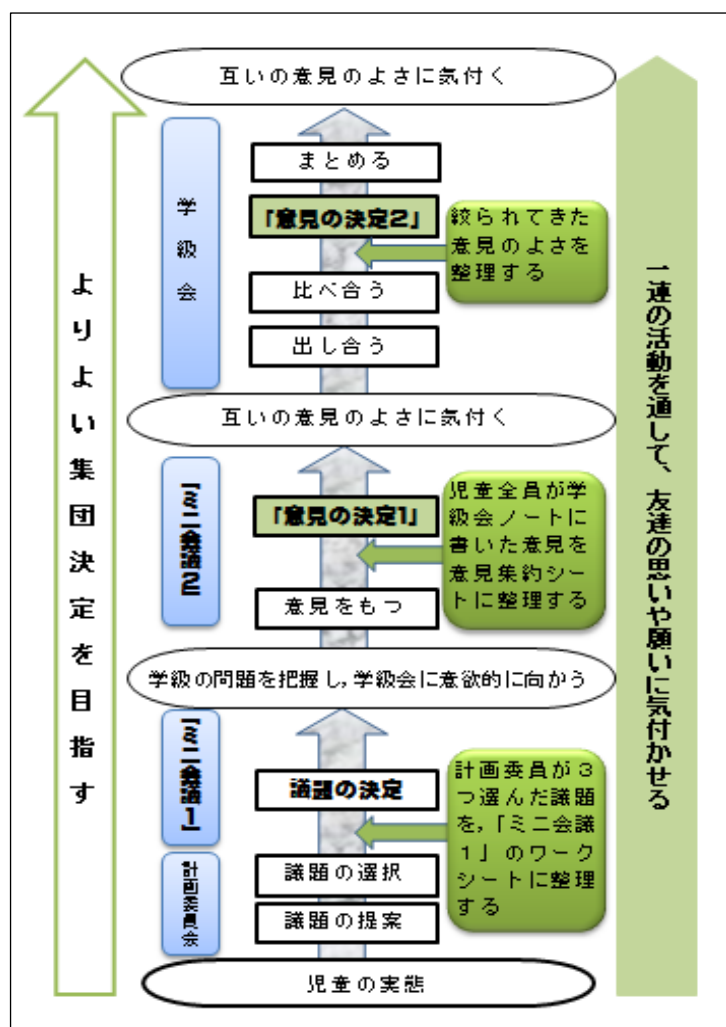


図1 研究構想図

の問題を把握させ、議題の意義を共有させる。

次に、自分の考えを学級会ノートに書かせ、自分の考えをもたせる。「ミニ会議2」では、児童の考えを整理した意見集約シートを用い、友達の意見のよさを見付けさせる。そして、異なる意見をもつ小集団で自他の意見のよさを伝え合わせた後で、根拠を明らかにして、意見を決めさせる「意見の決定1」をさせる。学級会では、「ミニ会議2」で決定した意見を出し合うことから始めさせる。比べ合う段階では、出し合った意見に質問したり、賛成・反対意見や解決策を伝え合ったりさせ、十分に意見を比較・検討させる。司会者と教師が意見の整理をした後に、「意見の決定2」を行い、その考えをまとめる段階で発表させ、収束に向かわせる。

(3) 検証の視点について

ア 議題の意義を共有させることができたか（視点①）

学級会は、よりよい生活を目指すための学級の問題発見が導入となる。児童にその問題への関心をもたせることは、その後の話し合い活動や実践活動までの意欲の向上にもつながると考える。そこで、計画委員会で議題箱に入った議題カードの中から議題案を3つに絞らせ、選ぶ際のポイントを示して、「ミニ会議1」で全員で話し合わせて議題を1つに決めさせる。この話し合い活動において、学級生活上の問題を認識させることで、議題への問題意識が高まるのではないかと考えた。

イ 自分の意見と友達の意見を比較・検討する場で意見のよさに気付くことができたか

(ア) 「ミニ会議2」で、意見集約シート上で友達の意見のよさを見付け、小集団で意見を伝え合うことによって、「意見の決定1」ができたか（視点②）

話し合いの中でみんなの意見を生かすためには、自己主張をするだけでなく相手の意見を肯定的に受け止め、意見のよさに気付かせなければならない。そこで、「ミニ会議2」では、児童の考えをまとめた意見集約シートで自他の意見を比較・検討させ、異なる意見をもった小集団で伝え合わせる。このように、自他の意見のよさに目を向けさせ、再び意見を選ばせることで、根拠を明らかにして意見のよさに気付いてよりよい意見を決めることができるようになると思う。

(イ) 学級会で、「まとめる」段階に入る前に、友達の発言を振り返る場を設定することで、「意見の決定2」ができたか（視点③）

司会者と教師が、比べ合った意見を板書したものを示しながら整理する。司会者は、それぞれの意見に対する賛成と反対の数を確認し、教師は、意見のよさに着目して、児童とともに絞られてきた意見についての発言を確認する。このことで、意見のよさに目を向けて意見の決定ができると思う。

(4) 抽出児について

抽出児童2名の変容について考察し検証を行う。A児は、自分の考えをしっかりと発言できるが、友達の意見に賛同することがあまりなかった児童である。B児は、ノートの記述には自分の考えをしっかりと表すことができるが、発言は多くない。2名とも、それまでの学級会では、他の意見に目を向けず、自分の考えを最後まで変えないことがあった児童である。

(5) 授業の実際

仮説を検証するため、所属校3年生1クラス（男子15名、女子11名）において、検証授業①「もっとみんななかよくなるよう」「友達をもっとふやそう」と、検証授業②「スーパー3の2になろう」「3年生の思い出を残そう」の授業実践を行った。ここでは、「3年生の思い出を残そう」を中心に検証を行った。

ア 議題の意義を共有させることができたか（視点①）

(ア) 学級の問題に目を向けさせ、問題解決への意欲を向上させる「ミニ会議1」の設定

学級会のぎだいをみんなで決めよう「ミニ会ぎ1」 2月1日(月)
3年 名前()

③ぎだいを
アルバムを作ろう

ていあんりゆう
四年生になってもはなれな
しきずなを作り、だれかが
いようにしたいから

ていあん者()さん

③ぎだいを
行事カードを作ろう

ていあんりゆう
思い出にのこった行事や、も
話し合って書くと思ひ出にな
るから

ていあん者()さん

③ぎだいを
記念の色紙を作ろう

ていあんりゆう
みんなの写真を三年生の思
い出にするようばねんになる
から

ていあん者()さん

ぎだいをえらぶポイント

- ・3年生の思い出をのこすために一番よいと思うもの
- ・自分たちのアイデアで、より工夫できるもの

えらんだぎだい

えらんだわけ

「ミニ会ぎ1」のふり返り ※どれかに○をつけましょう

	あてはまる	たいていあてはまる	あてはまる	あてはまる
ぎだいにこめられたねがいがあった				
決まったぎだいになっとくできた				
学級会が楽しになった				

「友だちの意見を聞いて考えたこと」や「決まったぎだいについて考えたこと」など かんそうを書きましょう。

資料1 「ミニ会議1」のワークシート

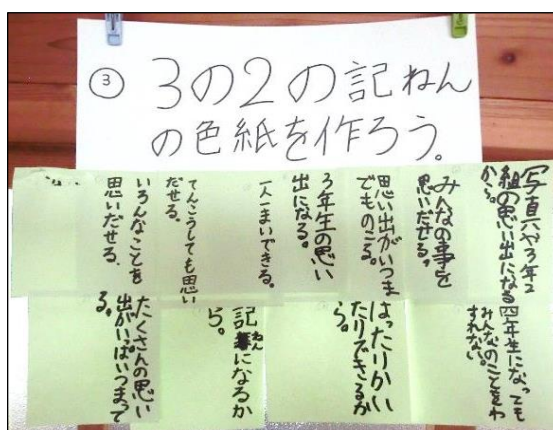
検証授業②「3年生の思い出を残そう」では、資料1の[]のように、ワークシートに議題を選ぶポイントを示し、「行事カードを作ろう」「アルバムを作ろう」「記念の色紙を作ろう」の3つの議題案の中から、議題を1つに決める「ミニ会議1」を行った。ポイント1を「3年生の思い出を残すために一番よいと思うもの」とし、ポイント2を「自分たちのアイデアで、より工夫できるもの」としたが、児童はポイントに沿って議題を選び、「ミニ会議1」で選んだ議題と理由を発表することができた。

どの議題がよいか伝え合わせたところ、「3年生の思い出になるから」「みんなのことを思い出せるから」「思い出がいっぱい詰まったものができるから」などの理由で「記念の色紙を作ろう」に賛成する意見は多数出た。理由は伝え合わせて、カードに書いていった。

「アルバムを作ろう」には、賛成者が1名いて、理由をしっかりと伝えることができた。他の児童は、「記念の色紙を作ろう」に賛成していた。「写真は、色紙にも貼れるので、2つの議題を合わせてはどうか」と提案した児童がおり、その意見に、全員が賛成し、写真付きの色紙を作るということになった。

意見のよさに目を向けさせたことで、少数意見も生かそうとする議題決めになった。

資料2は、「ミニ会議1」において児童が発表した理由を書いた掲示物である。これは、「ミニ会議1」において黒板書記の児童が書いた言葉である。学級会前に教室に掲示し、みんなの願いを



資料2 「ミニ会議1」で出された意見

意識させた。また、「ミニ会議1」の時のみんなの思いを汲み取って提案理由を考え、「3年生の1年を振り返り、みんなの思い出がいっぱい詰まった色紙を作れば記念になるし、クラスがもっとよくなるから」という文章になった。

(イ) 視点①の考察

図2から、「議題にこめられた願いが分かったか」という問いには、96% (25人) の児童が「分かった」「だいたい分かった」と答えていることが分かる。これは、11月と比べると、16ポイント増えている。「ミニ会議1」で、理由を挙げながらどの議題がよいかの話し合いをさせたことで、友達の願いや学級での問題を理解でき、話し合いへの意欲が高まったと考える。また、「写真は、色紙にも貼れるから」という理由で、2つの議題を1つに合わせることを提案した児童は、どちらの議題の願いも理解して、提案したものとする。感想の中に、「アルバムみたいな色紙が作れるので、楽しみだ」「色紙を作りたいという意見を言って、それが決まってよかった」などの内容があった。このことから、学級会への意欲が高まり、議題の意義が共有できたと考えられる(図3)。

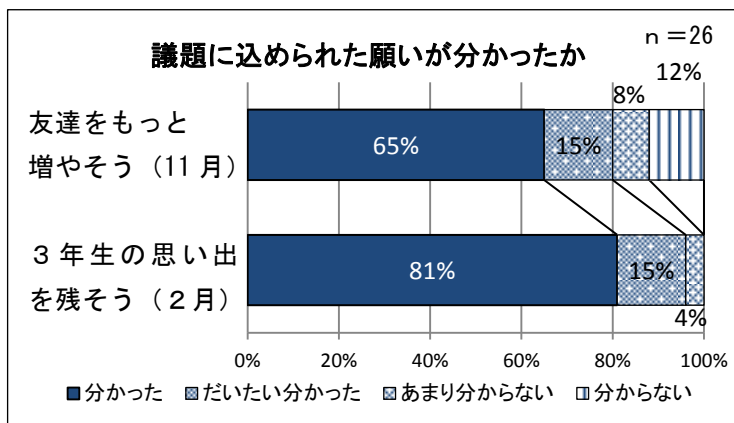


図2 「ミニ会議1」振り返り①

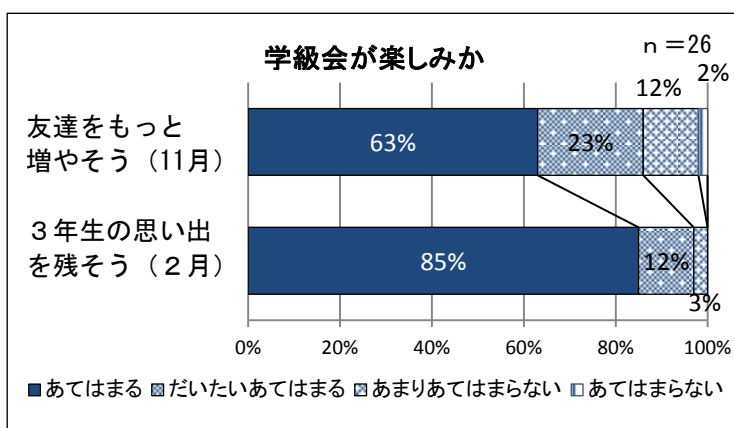


図3 「ミニ会議1」振り返り②

(ウ) 抽出児の考察

A児は、「記念の色紙を作ろう」に賛成していて、アルバムは学級で1冊だが色紙は一人一人に配られるので、手元に置いて思い出を振り返られるよさを理由として挙げていた。B児は、「行事カードを作ろう」という議題に賛成し、1年間の行事を振り返ることで思い出を残そうと考えていた(表1)。このように、議題を選ぶポイントを提示したことにより、議題に関心を持ち、それぞれに理由を考えて議題案を選ぶことができた。また、2名とも「議題に込められた願いが分かった」「学級会が楽しみだ」と答えているので、問題把握をして学級会に意欲的に臨む姿が期待できた。

表1 「ミニ会議1」の抽出児の意見

抽出児	賛成した議題	理由
A児	記念の色紙を作ろう	1人1枚必ずもらえるし、思い出になる。記念にもなるから。
B児	行事カードを作ろう	思い出に残った行事について話し合っ書くと思い出になるから。

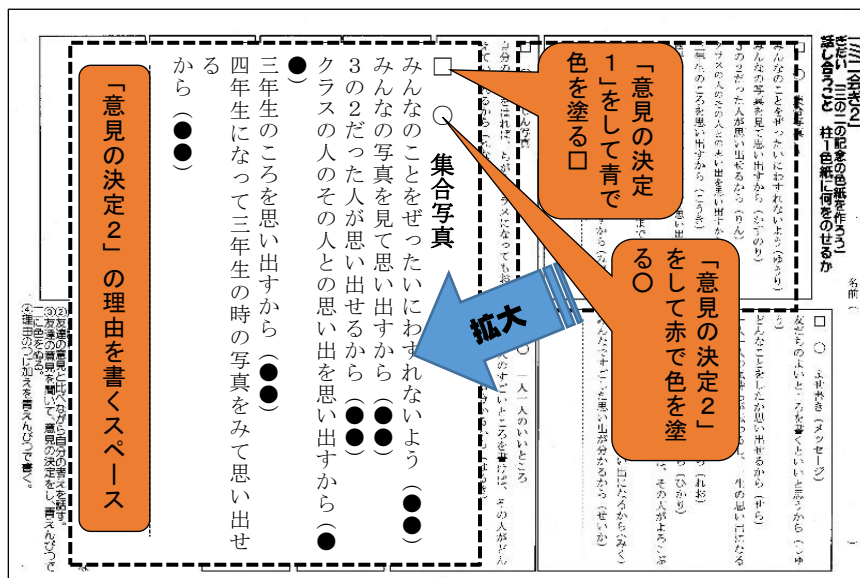
イ 「ミニ会議2」で、意見集約シートで友達の意見のよさを見付け、小集団で意見を伝え合うことによって、「意見の決定1」ができたか(視点②)

(ア) 多様な意見を比較・検討し、「意見の決定1」を行う「ミニ会議2」の設定

話し合いの中で、児童が自分の考えに執着せずに、友達の意見のよさに気付けるように、「ミニ会議2」を設定した。次頁資料3にあるような、全員の意見と理由を1枚のワークシートにまとめた意見集約シートを用いて、「ミニ会議2」を行わせた。話し合いは、異なる意見をもった3~4人の

集団で行わせた。

まず、よいと思う意見や理由に鉛筆で線を引かせながら意見集約シートを読ませた。次に、線を引いた意見を発表させ、全員の発表が終わったら、最もよいと思った意見と理由に、青鉛筆で線を引かせ、意見の上にある□に色をぬらせた。この「意見の決定1」は、友達の意見のよさに目を向けさせ、自他の意見を比較・検討して、再び意見を決めさせる活動である。



資料3 「ミニ会議2」意見集約シート

(イ) 視点②の考察

「ミニ会議2」の振り返りを見ると、「○○さんの意見がいいなと思った」「友達の意見がよかったので迷った」「これもいいなあとと思いながら読んだ」という感想があった。図4は、意見集約シートを読んでよいと思った意見や理由に鉛筆線を引いた数である。11月と比べると、2月は線を引

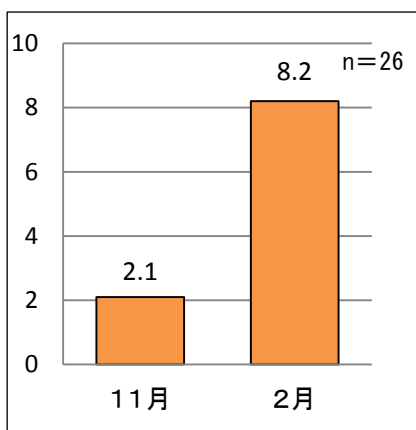


図4 意見集約シートに線を引いた平均の数の変化

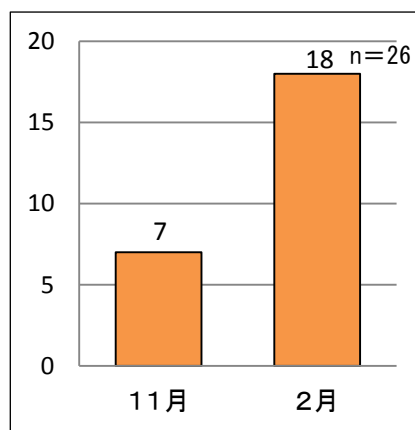


図5 挙手した児童数の変化

いた数が4倍近くになっている。これは、友達の意見のよさを見付けようとする児童が増えてきたためと考えられる。児童は、意見集約シートを読むことで友達の多様な考えを知ることができ、自分の考えと比較・検討させることで、議題に対する意見としてふさわしいものについて考えるようになってきたと考えられる。また、図5は学級会の出し合う段階で、始めの5分間に挙手をした児童の数である。2月と11月を比較すると挙手をする児童の数が増えている。このことから「意見の決定1」をすることで、よりよい意見を決めることができ、意欲的に学級会で発言しようとする児童が増えたと考えられる。

(ウ) 抽出児の考察

A児は、「寄せ書き」から「自分の一番の思い出」に意見を変えている。これは、「ミニ会議2」の同じグループで発言した児童の「ずっと心に残るから」という言葉に、影響を受けていると考えられる。ま

表1 最初の意見から意見の決定1までの抽出児の意見の変容

意見を持つ場	A児の意見	B児の意見
学級会ノート 最初の意見	寄せ書き 理由:あの時はこんなことしたなとわかるから	集合写真 理由:3年生の時、同じクラスだった人が分かるから
ミニ会議2 「意見の決定1」	一番の思い出の写真 理由:もつと思い出が伝わるから	集合写真 理由:色紙を作る時に必要だと思うから

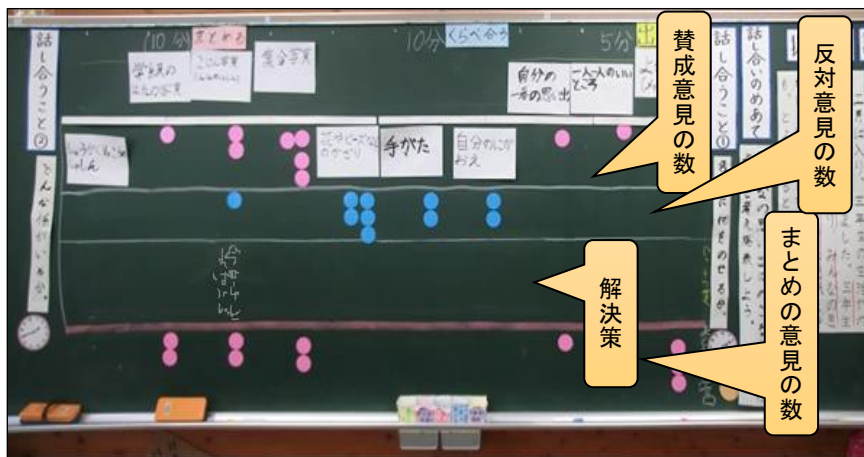
た、B児は、「集合写真」から変わっていないが、理由が「同じクラスだった人が分かるから」から「色紙を作る時は（集合写真が）必要だから」のように、変わっている。これは、意見集約シートで、同じ意見に賛成する児童の理由を読んだことで、完成した色紙をイメージし、集合写真はなくてはならないと考え、必要としていると捉える（前頁表1）。

ウ 学級会で、「まとめる」段階に入る前に、友達の発言を振り返る場を設定することで、よりよい集団決定に向かう「意見の決定2」ができたか（視点③）

(7) よりよい集団決定に向かうための「意見の決定2」をさせる場の設定

検証授業②「3年生の思い出を残そう」では、比べる段階において、提案理由に合っていないことや制作上の問題点を理由に取り下げられ、意見が6つに絞られた。その中から色紙の大きさを考えて、さらに少数に絞ることにした。

「意見の決定2」を行う前に、司会者と教師が意見の整理を行った。資料5に



資料5 学級会の板書記録

示すように、黒板には賛成意見と反対意見の数や解決策を見えるようにした。司会者が、賛成意見の数について確認を行った後に、教師が児童とともにそれぞれに出された賛成意見の内容やそれぞれの意見のよさを整理した（資料6）。

司会：ここで1度意見の整理をします。黒板を見てください。みなさんの意見を聞いてみると、「集合写真」には賛成が多いです。「個人写真」は、反対もあったけど解決策が出ました。「学級の旗の写真」には賛成意見が1つ、「寄せ書き」には2つ、「一人一人のいいところ」は1つ、「自分の一番の思い出」に1つ賛成意見が出ています。「手形」と「似顔絵」は、反対意見が出ていて解決策がありません。

「手形」と「自分の似顔絵」には、解決策がないようなので取り下げていいですか。

全員：はい。

司会：「修学旅行の写真」については意見が出ていませんが、取り下げてよいという声が聞こえるのですが、取り下げてよいですか。

全員：はい。

司会：では、先生お願いします。

教師：取り下げられた意見もいくつか出てきましたが、ここからはこの6つの意見について考えていきましょう。「寄せ書き」は、一人一人に宛てて書きます。全員分が書き上がりますね。一生の思い出になるという意見もありました。「一人一人のいいところ」は、表に書くのだそうです。みんなのよさがまとめて書けますね。「自分の一番の思い出」は、作文を書くのですね。「集合写真」と「個人写真」は、これから撮ってもいいですね。「学級の旗の写真」は旗だけでなく旗に描いたキャラクターにも思い出がいっぱいです。この後「意見の決定2」をしてもらいます。これまでの意見を聞いてきてこれは是非というものに赤丸印を付けて、理由を点線の左側を書いて下さい。

※波線部：司会者の賛成反対の数の整理 ※実線部：教師による意見のよさの整理

資料6 司会者と教師による意見の整理

その後、児童は「意見の決定2」を行い、決定した意見は、意見集約シート上に赤鉛筆で印を付けさせ、選んだ理由を書かせた。次頁資料7は、まとめる段階の発言の様子を表したものである。意見のよさを再確認する意見（実線部）や少数意見を生かそうとする意見（波線部）などがあり、全員で集団決定に向かう姿勢が見られた。

(4) 視点③の考察

「意見の決定2」をする際に、選んだ理由を見てみると、比べる段階までに出てきた意見のよさ

を確認したり、他の意見と比べてよさを強調したり、少数意見だがこうすればできるという提案をしたりしていた。これは、それぞれの意見のよさに着目し、そのよさを生かしたいという児童の願いの表れだと考えられる。これは、意見の整理をする際に、それぞれの意見のよさを確認したことにより、意見の決定をする際の根拠を明らかにすることにつながった。

司会：意見を発表してください。
 C₁：寄せ書きがいいと思います。3年生の時にこんなことをしたと思わせるからです。
 C₂：私は、やっぱり、集合写真がいいと思います。わけは、みんなで撮ってるものだと仲のいいクラスだったと思えたりして、楽しかった3年生だったと思えるからです。
 （「寄せ書き」「集合写真」「個人写真」の賛成意見が続く）
 C₃：自分の似顔絵に賛成していましたが、自分の一番の思い出に賛成します。わけは、〇〇さんと同じでこの1年で思い出になったことを書けばいいと思うからです。
 C₄：私は学級の旗の写真がいいと思います。わけは、旗のキャラクターを忘れないと思うからです。
 C₅：わたしも、学級の旗の写真がいいと思います。□□さん、△△さんの手形が入っていないけど、少しだけ隙間があるのでそこに入れて（写真を撮ったら）いいと思うからです。
 A児：ぼくは、寄せ書きと個人写真を合わせれば、いいと思います。寄せ書きの近くに写真をはればだれのメッセージかが分かりやすいと思うからです。
 司会：「寄せ書き」「集合写真」「個人写真」「学級の旗」は、賛成意見が多かったので決定します。「一人一人のいいところ」と「自分の一番の思い出」はどうしますか。
 C₇：やり方は違ってもいいけど、寄せ書きの中にその人のいいところや、その人との思い出を書くといいと思います。
 司会：みなさん、それでいいですか。
 全員：はい。

資料7 検証授業②におけるまとめの段階の話合い

まとめの段階の発言を見ると（資料7）、少数意見だった「学級の旗の写真」に賛成するC₄児が、みんなで学級のキャラクターを考えて、旗作りをしたことを思い出させるような意見を出した。その直後に、C₅児は、転校してきた2人の友達の気持ちを考え、その友達の手形も入れてあげた旗になるようにすればいいという意見を出した。「修学旅行の写真」は、転校生が写っていないからという理由で取り下げられたが、2人の少数意見を生かそうとする意見で、「学級の旗の写真」は、クラスから承認を得ることができた。また、C₇児は、1つしか意見が出されなかった「自分の一番の思い出」と意見がなかった「一人一人のいいところ」について、内容だけでも残せるようにと考え、発言している。C₇児は、少数意見を大切に、決定した「寄せ書き」に書く内容として生かせるように提案をしたと考える。この提案には、全員が賛成した。このように意見の整理をし、全員に「意見の決定2」をさせたことで、友達の思いや願いに気が付き、それを生かそうとする姿が見られるようになった。図6に表すように、話合いで決まったことに「納得できた」と答えた児童が、86%（22名）であった。これは、話合いによって絞られてきた意見のよさを生かしながら集団決定できたことへの満足度の高さであると考えられる。

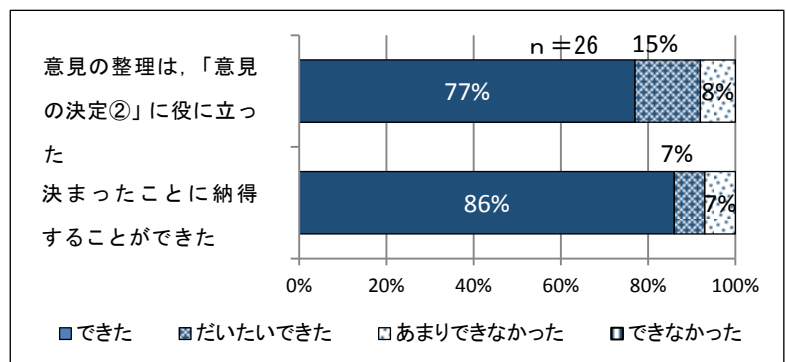


図6 学級会振り返り

(ウ) 抽出児の考察

A児は、学級会の「意見の決定2」では、「寄せ書きと個人写真を組み合わせる」と書いている（次頁表2）。これは、意見を比べ合う際にC₁児などの意見を聞いて「寄せ書き」と「個人写真」の両方のよさを再確認し、2枚の色紙の1枚分に写真付きの寄せ書きを載せることをイメージした

意見である。少数意見に目を向け、友達の意見を生かそうとする姿と見ることができる。

「集合写真」がいいと考えていたB児は、「意見の決定2」の記述を見てみると、「寄せ書き」に意見を変えている。理由には、「一生の思い出になる」という、B児の思いが伝わる言葉が書かれている。この言葉は、意見集約シートの記述や学級会の他の児童の発言に出てきたり、教師が意見の整理の際に確認させたりした言葉である。B児はまとめの段階で発言をしなかったが、「集合写真」に賛成する他の児童の意見に賛同し、集団決定に加わっていた。

表2 「意見の決定1」から「意見の決定2」までの抽出児童の意見の変容

意見を持つ場	A児の意見	B児の意見
ミニ会議2 「意見の決定1」	自分の一番の思い出 理由：もっと思い出が伝わるから	集合写真 理由：色紙を作る時に必要だと思うから
学級会 「意見の決定2」	寄せ書きと個人写真を組み合わせる 理由：誰が書いてくれたか分かって嬉しいから	寄せ書き 理由： <u>みんなのコメントは一生の思い出になるから</u>

エ 抽出児童の変容

前述したように、抽出児は、2人とも最後まで自分の意見を主張することが多い児童であった。しかし、2月の検証授業では、変容が見られた。まずは、「ミニ会議2」で、よいと思う意見や理由に線を引いた数である。A児もB児も線を引く数が、11月より増えている。この数が増えたことによって、自分の考えに執着せず、友達の意見のよさに目が向くようになったと考える(表3)。

表3 「ミニ会議2」で引いた鉛筆線の数

月	A児	B児
11月	0本	1本
2月	4本	14本

次に、学級会で決まった意見に納得できたかを問うと、A児はどちらも「あまり納得できない」と答え、B児はどちらも「納得できた」と意見が変わっていないが、その理由において変容が見られた。A児は11月の学級会では、キックベースに反対し、賛成派との意見のやり取りを繰り返した。その結果、賛成派に押されて、引き下がらざるを得なかったので、「時間の無駄だったから」と書いていた。しかし、2月は、色紙に写真を載せることが決まり、転校してきた児童への配慮をきちんと話し合っ て決めることができなかつたことが納得できない理由となっている。B児は、11月は、「自分の意見が決まったから」が納得できた理由だが、2月は学級会のまとめの段階でC₇児が少数意見を生かすために発言した「一人一人のいいところ」が決まったからということ を理由にしている。どちらも自分の意見を最後まで通そうとしていた11月のころとは違い、学級の友達の思いや願いに目を向けることができている姿である と考える(表4)。

表4 学級会で決まったことに納得したか

月	A児	B児
11月	あまり納得できない 理由：キックベースに反対したけれど、これをずっと続けても時間の無駄だと思ったから	納得できた 理由：自分の意見が決まったから
2月	あまり納得できない 理由：学級の旗の写真と集合写真は、転校してきた2人が写っていないので解決策を探そうと思う	納得できた 理由：「寄せ書き」と一人一人のいいところが決まったから

オ 全体を通した考察

活動が終わってから、一連の活動の振り返りを行った。次頁図7にあるように、「この議題は、クラスの思い出を振り返るのによい話し合いだったか」という問いに、「そう思う」と答えた児童は、92% (24名)である。これは、「ミニ会議1」で、全員で決めた議題に対する問題解決の意識を持続させ、話し合い活動や実践活動に意欲をつなげてきた姿と捉えられる。また、この実践活動後、88% (23名)の児童が、クラスのよさが増えたと感じており(次頁図8)、児童の感想には、「みんなで話し合った

から色紙がきれいにできた」「思い出を振り返って、みんなのよいところを見つけられてよかった」などがあった。

「意見の決定1」と「意見の決定2」では、自他の意見を比較・検討し、よりよいと思われる意見を選ぶように導

いてきた。その結果、集団決定された意見が、完成した思い出の色紙に反映された。クラスの仲間が協力し合って楽しい学級生活をつくることができたという体験と自信が、次の実践へ

向けての動機付けになり、学級生活が一層充実したものになっていくのではないかと考える。

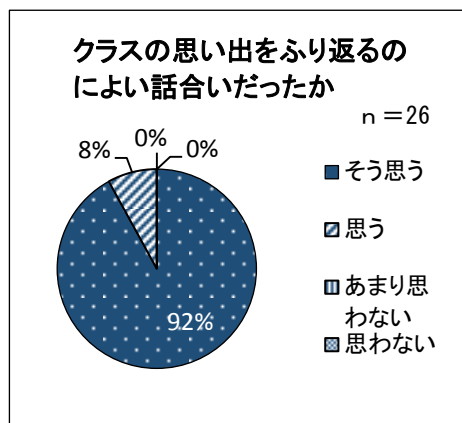


図7 議題についての振り返り

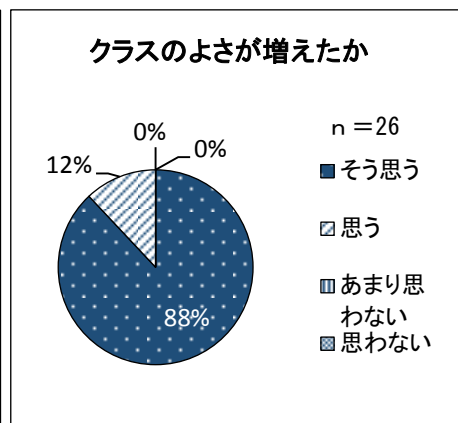


図8 実践活動の振り返り

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

学級活動(1)の話合い活動において、自他の意見を比較・検討させ、よりよい意見に目を向けさせることは、友達の思いや願いに気付きながら話し合えることができる児童の育成に有効であった。また、議題や話合いの柱についての意見を大切に、比較・検討させたことで、話し合ったことを生かして実践活動で協力して解決していこうとする意欲を持続させることができた。

- ・学級会の議題を全体で話し合っ決めてさせることで、学級の問題に目を向けさせ、議題の意義を共有させることができ、問題解決への意欲をもたせることができた。
- ・事前の活動と学級会の2つの話合いの場で、自分の意見と友達の意見を比較・検討させることで自他の意見のよさを認めながら、意見の決定をし、友達の思いに気付きながら話合いをしようとすることができた。

(2) 今後の課題

今回の検証では、話合い活動の際に、教師が助言して話合いの進行を促すことがあった。それぞれの段階で行う教師の効果的な助言の内容を考え、より自治的な話合いを効果的に手助けできるようにする必要がある。また、学級会の議題の種類や話合いの柱によって、収束の方法が異なるので、様々な場合を考え、指導法を工夫していきたい。

《引用文献》

- (1) 宮川 八岐 『学級会で子どもを育てる』 平成24年 文溪堂 p.73
 (2) 杉田 洋 『自分を鍛え、集団を創る特別活動の教育技術』 平成25年 小学館 p.47

《参考文献》

- ・国立教育政策研究所 『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動小学校編』 2015年 文溪堂
- ・橋本 定男 『子どもが力をつける話合いの助言』 1997年 明治図書
- ・杉田 洋 『よりよい人間関係を築く特別活動』 2009年 図書文化

